

秩父妙見

八日市場を歩く

八日市場・福善寺は1333

8(暦応元)年、またはその翌年に開かれたと伝わる寺院で、天神山を背にしています。本堂の裏山に、1878(明治11)年に四国八十八ヶ所霊場の「お砂」と石像に刻んだ本尊をまつる「新四国八十八ヶ所霊場」が勧請かんじゆうされました。

その霊場を上りはじめると小高い所に「秩父妙見」と呼ばれる社がまつられています。

40年ほど前にこの妙見社関連の調査が行われ、その成果を参考に紹介します。

福善寺の秩父妙見は、「1413(応永20)年、押田常重つねしげが田畑とともに寄進した」と伝えられています。それから330年ほど経た同寺の記録にも「妙見」と記され、さらに千葉県に明治12年に提出された「寺院明細帳」では、その由緒を「応永年間に千葉保重やまぢゆう

妙見社をまつったのでしよう。その後、およそ100年の間、押田氏は千葉氏の家臣として八日市場を拠点に活動したとされています。

押田氏は野手・円長寺を菩提寺とし、1535(天文4)年に亡くなった者が埋葬されているとされ、この頃から関係が生じたのでしよう。

この流れをくむ旗本・押田氏の娘とされる香琳院かうりんいんは、江戸幕府第11代將軍・家齊いえなりの側室で、1793(寛政5)年に後に12代將軍となる家慶いえよしを生みました。

家慶が將軍となった1837(天保8)年以降、押田氏の先祖とする「千葉保重」「押田常重」と円長寺、福善寺にも関心が寄せられたのでしよう。両寺には押田氏のルーツ探しとも受け取れる1840(天保11)年の文書が伝わっています。

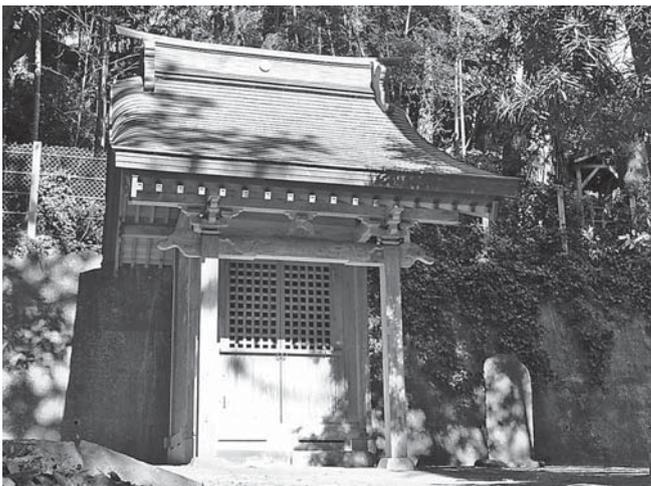
謎の多い秩父妙見ですが、福善寺周辺は「2社2寺めぐり」コースとなっているので、関心を寄せてみてはいかがでしょうか。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報聴班

☎73・0080



福善寺の裏手にまつられる「秩父妙見」

がまつる」とし、1921(大正10)年の『匠瑳郡誌』でも同様の記載とともに、この妙見社を「古くから本町(八日市場町)の鎮守なり」としています。

押田氏と福善寺の関係については、寺の裏山がかつての「八日市場城跡」とされ、当地への押田氏進出が1470年代とされていることから、守護神として